

1. 科目名 (単位数)	幼児教育実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6312
2. 授業担当教員	岡野 雅子・和崎 光太郎		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	<p>幼稚園、保育所、認定こども園等における実践に関する論文・報告書の講読、および保育現場への参加観察等を通して、複雑な実践状況を的確に把握し、課題等を発見し、改善への方策を考える力を養う。加えて、近年重要度が増している保護者対応の実践スキルを向上させるため、現代日本の家族の状況を、特に母親に注目して探求する。</p> <p>授業参加者の基礎体験、保育についての知識の量に幅があることが予想される。保育を取り巻く現実的問題を導入として、現在の保育実践法の理解へと進める。授業の進行状況に合わせて、柔軟な進行を考えている。授業は学生が交代でレポーターの役割をとって話題提供をする方法をとる。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、保育現場への参加観察は代替内容となる可能性がある。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの生活と経験の基本的特質の理解を深める。 2 現在の、多様な幼児教育実践法の違い、実践上の課題を理解する。 3 文献 (実践に関する論文・報告書等) からの読み取りと実践現場における読み取りの両方を目指す。 4 実践状況を分析的にとらえる力を養う。 5 実践を捉える視点を持ち、的確に評価できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの生活実態、幼児教育の社会的位置づけや理解、保護者の意識期待等今日的課題を念頭に、幼児教育の目標に即して幼児教育実践について考察、レポートする。(レポートの書き方、資料等については初回の授業にて伝える) 2 幼稚園、保育園、認定子ども園のいずれかを観察し、または資料によって生活の実践記録を研究し、保育実践法、子どもの生活実態、保育上の課題をレポートする。(観察園、資料、記録のとり方、分析、まとめ方は事前に打ち合わせる) <p>最終レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 多様な保育実践から 1、2 の例を設定し、見学または資料を通して、その実践が目指している理念とその実践状況、教育効果の関連を分析し、レポートする。(観察園、資料収集等については事前に打ち合わせる) 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 「幼稚園教育要領」(平成 29 年告示)・「保育所保育指針」(平成 29 年告示) 上記ほか、授業毎に提示する。示されたものの中から選択して講読すること。</p> <p>【参考文献】 鯨岡峻・鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房、2007 年 河邊貴子「明日の保育の構想につながる記録のあり方 「保育マップ型記録」の有用性」『保育学研究』第 46 巻第 2 号、2008 年、 https://www.jstage.jst.go.jp/article/reccej/46/2/46_KJ00005133028/_article-char/ja/ 厚生労働省「子どもを中心に保育の実践を考える」、 https://www.mhlw.go.jp/content/000521634.pdf 日本保育協会「保育実践研究・報告集」、 https://www.nippo.or.jp/laboratory/index2.html ソニー教育財団「保育実践事例検索」 https://www.sony-ef.or.jp/preschool/search/?cid=209</p> <p>【教材】 レジュメ等の資料はその都度配布する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文献の研究目的、方法、結果、考察の関連の理解ができ、要点をまとめることができるか 2 我が国の保育制度、保育の実践実態についての知識、理解の習得と共に自分なりの見方ができるか 3 現場の観察記録と保育の考察ができるか <p>○評定の方法</p> <p>日常の授業態度 (発言、出席状況) 40%</p> <p>レポート (3 回) 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼児教育の理論や実践について、時代の流れや識者の意見にとらわれずに、真に「実際に即して」「子どもを通して」考える姿勢を大切にします。また、文献を丁寧に読み、論文作成法を学ぶと共に、率直に疑問を持ち、課題を発見するようにして下さい。</p> <p>授業では、わからないこと、しらないことを自由の出し合える雰囲気を作りたいと思います。</p>		
13. オフィスアワー	時間割が決められてから、指定します		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 1 : 保育所・幼稚園と家族の変化		
【学習の目標】	保育の場を社会全体の中で位置づけることができ、その近年の変容過程を理解する。		
【学習の内容】	保育所・幼稚園・認定こども園の違いを確認した上で、家族のここ 30 年間での変化、及び女性のキャリア形成の変化について探求、討論する。		
【キーワード】	家族 女性 主婦 共働き M 字型 結婚 待機児童 保護者相談		
【学習の課題】	保育現場を社会の中に位置づけることができ、保育現場が抱える今日的課題がなぜ生じたのか、その課題にどのように取り組むべきなのかを、明示できるようになる。		
【参考文献】	『令和 3 年版 男女共同参画白書』2021 年 『第 15 回出生動向調査』2015 年		
【学習する上での留意点】	新聞などで保育に関する時事ニュースを読んでおくこと。		
2. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 2 : 保幼小接続		
【学習の目標】	「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」について、保幼小接続の観点から内容を熟知する。		
【学習の内容】	「教育要領」および「保育指針」を熟読し、両者のつながり及び小学校との接続を踏まえて、キーワードを中心に全体像を理解する。		

	<p>【キーワード】 教育 保育 養護 環境 3つの資質・能力 10の姿 保幼小連携 保幼小接続 カリキュラム</p> <p>【学習の課題】 (1) 現行の「教育要領」・「保育指針」の特徴はどこにあるのか。 (2) 保幼小接続について現行の「教育要領」・「保育指針」はどのように対応しているのか。</p> <p>【参考文献】 「幼稚園教育要領」(平成29年告示)・「保育所保育指針」(平成29年告示)</p> <p>【学習する上での留意点】 告示を、他箇所および関連法令とのつながりを把握した上で理解するよう努めること。</p>
3. テーマ	幼児教育実践の今日的課題3：アプローチカリキュラム
	<p>【学習の目標】 保幼小連携と保幼小接続がこの20年でどのように社会的に要求され、実践されてきたのかを探求する。</p> <p>【学習の内容】 主に愛知県の事例をもとに、保幼小連携がどのように進められ、それが今後のカリキュラムレベルでの保幼小接続へとどのように進展していき得るのかを討論する。</p> <p>【キーワード】 保幼小連携 保幼小接続 カリキュラム アプローチカリキュラム スタートカリキュラム</p> <p>【学習の課題】 保育実践現場においてアプローチカリキュラムを作成できるようになる。</p> <p>【参考文献】 「保育所や幼稚園等と小学校における連携事例集」文部科学省、2009年 https://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/03/dl/h0319-1a.pdf 「幼児教育、幼小接続に関する現状について」文部科学省、2015年 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/05/25/1358061_03_01.pdf 豊田和子編『実践を創造する 演習・保育内容総論【第2版】』みらい、2018年</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの生活や人間関係の展開等保育のプロセスを具体的に、また子どもの立場からとらえて考察する。環境に規定される子どもの立場と子どもの適応への過程に着目する。。</p>
4～9. テーマ	幼児教育実践研究1：領域と保育実践
	<p>【学習の目標】 保育実践を、学校教育法第22条および第23条に明記されている目的・目標から捉えなおし、的確に教育的意義を見出せるようになる。</p> <p>【学習の内容】 事例検討を通して、領域別のねらい及び意義を見出し、討論する。</p> <p>【キーワード】 5領域 総合的</p> <p>【学習の課題】 保育実践において、恣意的な保育ではなく的確な保育を実践できるようになり、その内容を指導案・報告として正確に文字化できるようになる。</p> <p>【参考文献】 「幼稚園教育要領」(平成29年告示) 江津和也・幸喜健『グループワークで学ぶ 保育内容総論』大学図書出版、2019年</p> <p>【学習する上での留意点】 保育実践を共有・引継ぎするためには、PDCAサイクルを念頭ににした計画・報告を作成できねばならないことに留意すること。</p>
10. テーマ	幼児教育実践研究2：実践的論文を読む
	<p>【学習の目標】 学術論文を正確に読み取り、批判的検討を行い、今後の自己課題・学問的課題を明確にする。</p> <p>【学習の内容】 学術論文を章ごとに読み、検討し、討論する。</p> <p>【キーワード】 論文 批判的検討 カリキュラム 保育マップ型記録</p> <p>【学習の課題】 学術論文を研究者として読めるようになり、修士論文作成に生かすことができるようになる。</p> <p>【参考文献】 河邊貴子「明日の保育の構想につながる記録のあり方 「保育マップ型記録」の有用性」『保育学研究』第46巻第2号、2008年、https://www.jstage.jst.go.jp/article/reccej/46/2/46_KJ00005133028/_article/-char/ja/</p> <p>【学習する上での留意点】 現場の視点を常に持ちながら、学問すること。</p>
11～15. テーマ	幼児教育実践研究3：実践事例の検討
	<p>【学習の目標】 多様な保育の実際を知り、自らの保育実践に生かす。</p> <p>【学習の内容】 多様な保育の根拠を読み取り、保幼小接続の根本を踏まえて、PDCAサイクルを念頭に実践事例を検討し、その結果に基づいて討論する。</p> <p>【キーワード】 カリキュラム 記録 PDCAサイクル</p> <p>【学習の課題】 各自が身近な保育実践、または課題性を感じる保育実践例を詳細にレポートし、討論を通して評価しあう。レポート内容および期日は事前に打ち合わせる。</p> <p>【参考文献】 鯨岡峻・鯨岡和子『保育のためのエピソード記述入門』ミネルヴァ書房、2007年 厚生労働省「子どもを中心に保育の実践を考える」、 https://www.mhlw.go.jp/content/000521634.pdf 日本保育協会「保育実践研究・報告集」、 https://www.nippo.or.jp/laboratory/index2.html ソニー教育財団「保育実践事例検索」 https://www.sony-ef.or.jp/preschool/search/?cid=209 ほか、後日、関連論文を指定する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自分の視点からの「保育実践を見る目」を確かにするために、互いの意見を尊重しつつ、主観や先入観にとらわれずに充分納得いく議論をすること。</p>